

特別寄稿

京（みやこ）あんしんこども館—18年度事業結果報告 （見学者，研修会，相談事業の状況）

京都市子ども保健医療相談・事故防止センター（京あんしんこども館）

京（みやこ）あんしんこども館は、京都第二赤病院救命救急センターの南隣に開設されて平成19年8月26日で3年になります。昨年、平成16年、17年度の事業について京都医報 No. 1847 に報告しました。今回、今後の推移を予測するために18年度の来館者、相談件数、とその内容分類を報告します。さらに今後、当館で実施を予定しております京都市で出産した乳幼児全例を対象とした事故調査事業の内容についてお知らせし、医師会の諸先生方、特に小児科医会、産科医会の先生方、保健所の先生方のご協力をお願いいたします。

18年度結果

1. 来館者などは表1に示した。個人、団体合わせて2,514人で個人来館者が、団体来館者の2倍で、月間210人であった。
2. 保健・医療相談は1,106件と増加した。その内週2回、府医師会小児科医会の先生による時間のかかる予約相談が行われている（表2，3）。
3. 団体での来館者は、育児学をまなぶ大学学部や看護学校からの学生達の参加者が増

えている。明瞭な目標をもった見学者の研修には有効であったと思われた（表4）。

4. 講習会は、年々回数が増えている。事故時の応急手当（心肺蘇生法）講習会は4回で、募集人数を超える盛況。チャイルドシート装着講習会は、適正に装着をしている時や不適切であるが装着している時には、装着していない時の5分の1，3分の1に死亡数を減少させられることを啓蒙するために、18年度には3回の講習会を行った（表5）。
5. 最近2年間の相談件数1,814例の解析では、男児が女児の1.7倍で、対象年齢では0から2歳までが82.5%であった。分類と頻度は表2に示した。疾病・予防接種に関するものが最も多く、事故がそれに続いた。疾病では、セコンドオピニオンのもの、薬に関するもの、発熱に関するもの（解熱剤の使用—座薬の使い方を含めて—）が多かった（表6）。

以上、順調な発展をしているように思っている。

京あんしんこども館（京都市子ども保健医療相談・事故防止センター）

澤田 淳¹， 能勢 修¹， 高峯 智恵¹， 井上 了子¹， 西田 明美¹，
山口 富子¹， 長村 敏生²， 清沢 伸幸²

1：京あんしんこども館， 2：京都第二赤十字病院小児科

表1. 来館者数

(単位:人)

年/月	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
H/16年度	個人					38	338	251	154	107	131	90	194	1,303	181
	団体						106	180	193	39	171	92	51	832	119
	合計					38	444	431	347	146	302	182	245	2,135	300
H/17年度	個人	174	143	159	239	162	188	98	167	64	84	137	123	1,738	145
	団体	14	0	153	327	0	166	78	250	161	30	18	0	1,197	100
	合計	188	143	312	566	162	354	176	417	225	114	155	123	2,935	245
H/18年度	個人	133	124	101	156	175	171	160	150	108	109	122	109	1,618	135
	団体	36	94	86	213	6	28	43	97	240	18	18	17	896	75
	合計	169	218	187	369	181	199	203	247	348	127	140	126	2,514	210

表2. 保健医療相談数

(単位:件)

年/月	相談別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
H/16年度	電話						19	22	23	29	22	31	40	186	27
	予約						7	3	4	5	3	5	4	31	4
	フリー						18	11	15	5	6	5	3	63	9
	合計						44	36	42	39	31	41	47	280	40
H/17年度	電話	32	35	44	47	54	48	56	68	65	38	58	70	615	51
	予約	4	4	6	9	8	6	5	6	5	2	5	8	68	6
	フリー	5	3	3	5	0	2	0	3	0	1	0	3	25	2
	合計	41	42	53	61	62	56	61	77	70	41	63	81	708	59
H/18年度	電話	77	73	85	63	87	77	81	98	81	83	78	88	971	81
	予約	9	7	1	8	6	10	5	6	4	4	7	13	80	7
	フリー	4	3	6	7	7	6	5	4	3	5	3	2	55	5
	合計	90	83	92	78	100	93	91	108	88	92	88	103	1,106	92

表3. 医師会出務医師相談等

(単位:件)

年度	診療情報提供書発行件数	医師会出務医師相談件数
H/16年度	4	9
H/17年度	11	59
H/18年度	15	44

表4. 団体・グループ研修

(単位:件)

	H/16年度	H/17年度	H/18年度	合計
行政(視察含)	39	20	23	82
大学・高校・看護学校	3	8	12	23
幼稚園・保育園関係	2	9	6	17
子育て支援関係	11	17	11	39
病院関係	1	6	4	11
企業・その他	2	0	4	6
合計	58	60	60	178

表6. 平成17,18年度相談事項の解析

項目	件数	%
疾病	591	32.6%
事故・転落・誤飲	242	13.3%
一般生理	201	11.1%
栄養(哺乳・食育)	179	9.9%
精神発達	159	8.8%
日常生活・生活習慣	113	6.2%
予防接種	112	6.2%
家族・その他	94	5.2%
体の発育	63	3.5%
運動発達	60	3.3%
合計	1,814	100.0%

表5. 一般公募講習会

講習会	H/16年度	H/17年度	H/18年度
お子さんの応急手当(心肺蘇生法)講習会	1回	2回	4回
チャイルドシート装着講習会		2回	3回
消防署と共催によるお子さんの救急救命講習会		1回	1回
合計	1回	5回	8回

付：先生方へのお願い

京都市で平成19年と20年に生まれた0～12か月までの乳児（ピンクのはがき）と同じ年に生まれた13か月～24か月の幼児（青いはがき）全員を対象に事故を調査します。目的は「子どもの事故を減らすための実態調査」です。この調査結果から、事故防止対策を考えたいと思っています。この調査の信頼度は回収率の高さに依存します。どうぞ、ご協力をお願いいたします。

京都市では赤ちゃんが生まれたら、お祝いに紙袋に入った「お祝いレター」を自宅にお送りしています。その中に、この事故調査用紙を同封しています。お母さん・お父さんへのお願い（事故からお子さんを守るために）として、受取人払いの返信用はがき（おもて）と記録の仕方を、例を挙げ調査用紙（うら）にかいてあります。この「子どもの事故記録」用紙、ピンク色（0～12か月用）と青色（13か月～24か月用）の2枚が「ミシンとじ」で入っています。

ここに「例のように書いて、1歳が過ぎたらピンクのはがきを、2歳が過ぎたら青色はがきをポストにいれてください。個人情報を守るために、名前、住所は不要です。生年月日、起こった事と場所と結果を書いてください。事故がなかった場合は「×」か、「なし」を書いて所定のシールを貼り付けて送ってください。」と記載してあります。

先生方へのお願いは、この事業へのご理解とご協力を、病院、診療所、保健所などでの1歳時健診、2歳児周辺の診察時には、事故記録を投函するようにご指導くださいますようお願いいたします。

京都市子ども保健医療相談・事故防止センター 澤田 淳

